



12月の園だより

令和 7 年 1 2 月 1 日

目黒区立中町保育園 園長

いくつかの検診の中でも、泣く子が断トツに多いのが歯科検診です。2歳児クラスが、大好きな散歩に行く時とは大違いの神妙な表情でやって来て、順番を待ちます。抱っここの体勢から仰向けになって歯科医の方に頭を向けるため、年齢の小さい子は何をされるかわからない不安と恐怖感に包まれます。「お姉さんだから泣かないよ」と宣言して仰向けになった途端「うえ〜ん」と泣き出し、歯科医から「わぁ（口の中が）よく見えるなぁ」と褒められるなんて場面もありながら、子どもたちの内面の育ちを間近で感じることが出来る時間です。担任保育士からどうにか離れたものの、検診を補助する保育士の手をギュッと握り、体の力が抜けないままだった子が、検診を終えると「泣かなかった」と言いながら担任保育士のもとへ駆け寄りました。自他ともに認める『大きくなることへの喜び』は、担任保育士に抱きしめられることによって誇りへと変わっていったように見えました。

子どもは育っていく過程の中で、自分の持てる力より少し上を目指して様々なことに挑戦したいという欲求を抱くようになります。その欲求を身近な人との信頼関係の中で叶えられるよう、心身の育ちにしっかり目を向け支えていきたいと思います。子どもたちには「お兄(姉)さんだから〇〇出来るよね」よりも「〇〇出来たね。お兄(姉)さんになったなぁ」と、実際に目にした姿を通して言葉をかけたいものです。大きくなることへの喜びは保育の仕事の喜びももたらしてくれます。

〇行事予定〇

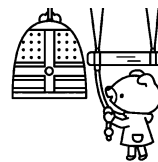
なかよし劇場（3・4・5歳児）
クラス懇談会（5歳児）

中旬 身体計測 避難訓練

《年末年始のお休みです》

12月28日（日）

～1月4日（日）



葉っぱ

ニコニコの時間

もも組（0歳児）

這い這いを始めたばかりの子が、園庭で場所見知りをしていました。しばらくの間、抱っこで「葉っぱだよ」と落ち葉を見せたり「ひらひら〜」と落として見せたりしていると、葉を目で追い、手を伸ばして拾い、手のひらから落として保育士の顔を見ました。「ひらひら〜、楽しいね」と声をかけると「う…」と安心したように笑顔を見せ、再び手を伸ばします。葉っぱの遊びを保育士と繰り返し楽しむうちに場所にも慣れ、やがて、砂の上を這い這いで進んでいきました。園庭や散歩先の自然を介して子どもたちの興味に寄り添い、一人ひとりの世界を広げていきます。



ひらひら

たんぼぼ組（1歳児）

三角山公園に落ちている色とりどりの葉の中から、気に入った色を選んで拾ったり、かき集めて舞い上げたりして思い思いに楽しんでいます。ある子が葉をベンチに置き「いらっしゃいませ、パン屋さんです」と保育士に声をかけてきました。「一つください」とやり取りしていると、別の場所で遊んでいた友達がその様子を観察したあと、葉をかき集め、隣の空間に同じように置き始めました。それから「いらっしゃいませ」と声をあげるとお客さんが来てくれました。「どうぞ」と葉っぱのパンを渡し、お客さんが受け取るやり取りが嬉しくて、にっこり笑い合っています。誰かが遊びのモデルとなり“観て・真似る”ことで遊びが広がっていきます。保育園でのそんな日常を大切にしていきます。



／いいこと考えた／

砂場で山作りをしました。黒砂を盛って手のひらで固め、上から白砂をかけることで崩れにくい山にしていきます。「手のひらでギュッって押してみて」と一緒に固め、手の形がつくと「わぁ～、オオカミの手だ」と声があがります。黒砂を固めていくうち山肌はどんどん滑らかになり「次は白砂をかけるんだよ」と集めた白砂を山頂からかけると、サラサラと流れていきました。その流れを見て「雪みたい」「プリンセスのドレスみたい」「富士(山)だ」と見たまま、感じたままの素直な言葉が飛び出します。白砂が流れる様子が面白くて、バケツが空になると再び白砂を集め、パラパラとかけて楽しんでいました。遊びの中で子どもの感性から生まれる言葉は、大人の感性をも刺激してくれます。子どもたちの表現を生かし、イメージを豊かに育むことが出来るよう、一緒にいろいろな遊びを楽しみたいです。

ほし組（3歳児）



いつだってそう
発見の連続

／やってみたい／

散歩先で拾った葉っぱで絵の具遊びをしました。でこぼこしている面に何色も絵の具を塗り、模造紙に写して葉脈を見てみようと思いましたが、子どもたちは葉っぱの上で絵の具が混ざり合い、見たことのない色が出来上がる面白さを見つけました。どれも素敵な葉っぱになっていたため、子どもたちの感性に任せて自由に貼っていくことにしました。「もっとやりたい」と葉を何枚も重ねながら立体的に作る子がいたり、指先に付いた何色もの絵の具がマール状になっていることに気付き「きれい」と皆に知らせたりしている子もいます。完成した作品を廊下に貼りだすと「これ 私が作った葉っぱ」と嬉しそうに話していました。遊びの中でそれぞれが感じた事や気付きに共感しながら、自然物を使って表現する喜びを感じています。子どもたちが“やってみたい”と思える活動の工夫をし、興味・関心の広がりに対応していきます。

つき組（4歳児）



／どうやるの／

トイレットペーパーの芯や空き箱などの廃材を使って制作を楽しんでいます。「この箱を使ってみようかな」とバッグや人形の家、乗り物など作りたい物をイメージし、それに見合う廃材や材料を選んでいます。友達が作っている物を見て「それ 私も作ってみたい。どうやって作るの」と作り方を教え合う姿や、迷った時は「もっとこうしたいけれど、どうしよう…」と相談することでアイディアを出し合い、協力しながら楽しんでいます。完成すると「いい感じに出来たね」と満足気で、制作物を使って嬉しそうに遊び始めています。おひさま組の作品を他クラスの子が見つめていると「触ってみたいのかな。どうぞ」と貸したり、一緒に遊んだりする姿も見られます。子どもたちの豊かなイメージを形に出来るように素材や環境を整え、様々な方法で表現する楽しさや喜びにつなげていきます。

おひさま組（5歳児）

